

第31図 黄金塚陵墓参考地
出土品実測図 (1/2)

外に広がり、良好に遺存することが予想されるが、これらの遺構がどの範囲まで続くかについては不明である。

上記の調査結果を踏まえ、市道拡幅計画に対する用地協力については断ることとし、現地は埋め戻しの後、旧状に復した。

(清喜裕二)

註

(1) 末永雅雄「第3章 1部 第6節 円照寺墓山第1号墳」『奈良市史』考古編、奈良市、1968年。

伊達宗泰「第3章 2部 第4節 円照寺墓山第2号墳」『奈良市史』考古編、奈良市、1968年。

(2) 森下浩行「ベンショ塚古墳の調査」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』平成2年度、奈良市教育委員会、1991年。

(3) 小島俊次「第2章 第5節 東山麓地域(1)山村地区」『奈良市史』考古編、奈良市、1968年。

(4) 本参考地治定前後の沿革については、下記文献にまとめられている。

西光慎治「宮内庁陵墓参考地・帯解黄金塚古墳の沿革」伊達宗泰監修『地域と古文化』、『地域と古文化』刊行会、2004年。

(5) 高橋猪之介撮影「黄金山古墳」坪井清足編『高橋猪之介寫真集英』(『埋文写真研究』別冊)、埋蔵文化財写真技術研究会、1995年。

黄金塚陵墓参考地の石材の石種とその採石地

奥田 尚

黄金塚陵墓参考地の葺石・敷石に使用されている石材の石種を裸眼で観察した(第32図、第2・3表)。調査地は段丘の上に位置し、礫まじりの粘土層が分布する。使用されている葺石・敷石の石材は表面が滑らかな川原石様のものが多く、露岩を剥がしたような鋭い角が残る石や節理面が顕著な石は僅かである。

当調査地付近は高樋町付近を南北に通る高樋断層により、東側の地質体が800m以上上昇しているために東側に基盤をなしている領家式花崗岩類が分布する。西側には1500万年前頃の中新世に堆積した藤原層群、1200万年前頃に堆積した鮮新世の白川池累層が分布し、その上に段丘をなす虚空蔵山礫層が分布する。藤原層群は主として凝灰岩質砂岩からなり、豊田山付近では石材として採掘されたようであるが、当調査地点の石材には1点も認められない。チャートは段丘礫層中の礫に認められる。当遺跡の南方を流れる菩提仙川の流域に分布する片麻状黒雲母花崗岩中には斑礫岩やペグマタイトが岩体として含まれる。特に北椿尾から興隆寺にかけての付近にはペグマタイト脈が多く見られる。

このような地層や岩石分布を後背地にもつことから菩提仙川の川原石には斑礫岩・ペグマタイト・片麻状黒雲母花崗岩・黒雲母花崗岩等、北方を流れる地藏院川にはチャート、黒雲母花崗岩、片麻状黒雲母花崗岩等がみられる。

1 石材の石種と採石推定地

葺石・敷石に使用されている石材の石種は、中粒アプライト・細粒黒雲母花崗岩・中粒黒雲母花崗岩A・中粒黒雲母花崗岩B・中粒斑礫岩・粗粒斑礫岩・片麻状粗粒アプライト・片麻状細粒黒雲母花崗岩・流紋岩質溶結凝灰岩・石英斑岩・チャートである。石種の特徴と採石推定地について述べる。

中粒アプライト：色は灰白色で、粒形が亜角である。石英と長石が噛み合っている。石英は無色透明、粒

径が2～3mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が2～3mm、量が非常に多い。

このような岩相を示す石は当参考地の南方にある菩提仙川の川原石にみられる。

細粒黒雲母花崗岩：色は灰白色で、粒形が亜円である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は灰色透明、粒径が1～2mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が1～2mm、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.5～1mm、量が僅かである。

このような岩相を示す石は当参考地南方の菩提仙川や北方の地藏院川の川原石にみられる。

中粒黒雲母花崗岩A：色は灰色で、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は灰色透明、粒径が1～2mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が1～3mm、量が中である。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が1～2mm、量が中である。

このような岩相を示す石は菩提仙川や地藏院川の川原石にみられる。

中粒黒雲母花崗岩B：色は灰色で、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は灰色透明、粒径が2～4mm、量が多い。長石は灰白色、粒径が2～4mm、量が中である。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が1～2mm、量が僅かである。

このような岩相を示す石は菩提仙川や地藏院川の川原石にみられる。

中粒斑糲岩：色は暗灰緑色で、粒形が亜円である。長石・角閃石・輝石が噛み合っている。長石は灰白色、粒径が2～3mm、量が多い。角閃石は黒色、粒径が2～3mm、量が中である。輝石は暗緑色、粒径が2～4mm、量が中である。

このような岩相を示す石は北椿尾から興隆寺にかけての付近に分布する斑糲岩の岩相の一部に似ている。菩提仙川の川原石にみられる。

粗粒斑糲岩：色は暗灰緑色で、粒形が亜円である。長石・角閃石・輝石が噛み合っている。長石は灰白色、粒径が2～4mm、量が多い。角閃石は黒色、粒径が4～8mm、量が多い。輝石は暗灰緑色、粒径が3～4mm、量が中である。

このような岩相を示す石は北椿尾から興隆寺にかけての付近に分布する斑糲岩の岩相の一部に似ている。菩提仙川の川原石にみられる。

片麻状粗粒アプライト：色は灰白色で、粒形が亜角である。顕著な片麻状を呈し、片麻状の方向に鉱物粒が並ぶ。石英と長石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が5～8mm、量が多い。長石は灰白色、粒径が6～8mm、量が多い。

このような岩相を示す石は菩提仙川や地藏院川の川原石に稀にみられる。

片麻状細粒黒雲母花崗岩：色は灰白色で、縞状をなす。粒形が亜円である。黒色部には黒雲母が多く、白色部には長石が多い。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が1～2mm、量が多い。長石は灰白色透明、粒径が1～2mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が1～1.5mm、量が僅かである。

このような岩相を示す石は菩提仙川流域の北部に分布する片麻状黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。菩提仙川や地藏院川の川原石にみられる。

流紋岩質溶結凝灰岩：色は灰白色である。板状節理が顕著な割り石と川原石とである。顕著な溶結を示す。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が2～3mm、量が多い。複六角錐あるいはその一部が認められるものが多い。長石は灰白色、短柱状で、粒径が2～3mm、量が中である。黒雲母は黒色、六角形板状で、粒径が1～2mm、量が僅かである。基質はガラス質である。

このような岩相を示す石は宇陀郡から山辺郡にかけて広く分布する室生火山岩、奈良市春日奥山付近に分布する石仏凝灰岩の岩相の一部に似ている。室生火山岩には柱状節理がみられる場合が多いが、場所によっては板状節理が顕著な部分もある。石仏凝灰岩には柱状節理や板状節理が殆ど認められない。採石地としては室生ダム北方付近が推定される。割り石は板状の石材を加工した時の破片と推定される。

石英斑岩：色は灰色で、粒形が亜円である。斑晶鉱物は石英と短柱状の長石である。石英は無色透明、粒

径が1～2mm、量が中である。複六角錐あるいはその一部が認められるものが多い。長石は灰白色、粒径が2～7mm、量が中である。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は付近の虚空蔵山礫層の礫にみられる。菩提仙川か地藏院川の川原石であろう。

チャート：色は白色・赤褐色・淡茶色・青灰色等である。粒形が垂円・円である。熱変成を受けているのか、やや粒状化しているものが多い。

このような岩相を示す石は付近の礫層の礫にみられる。菩提仙川や地藏院川の川原石に僅かであるがみられる。

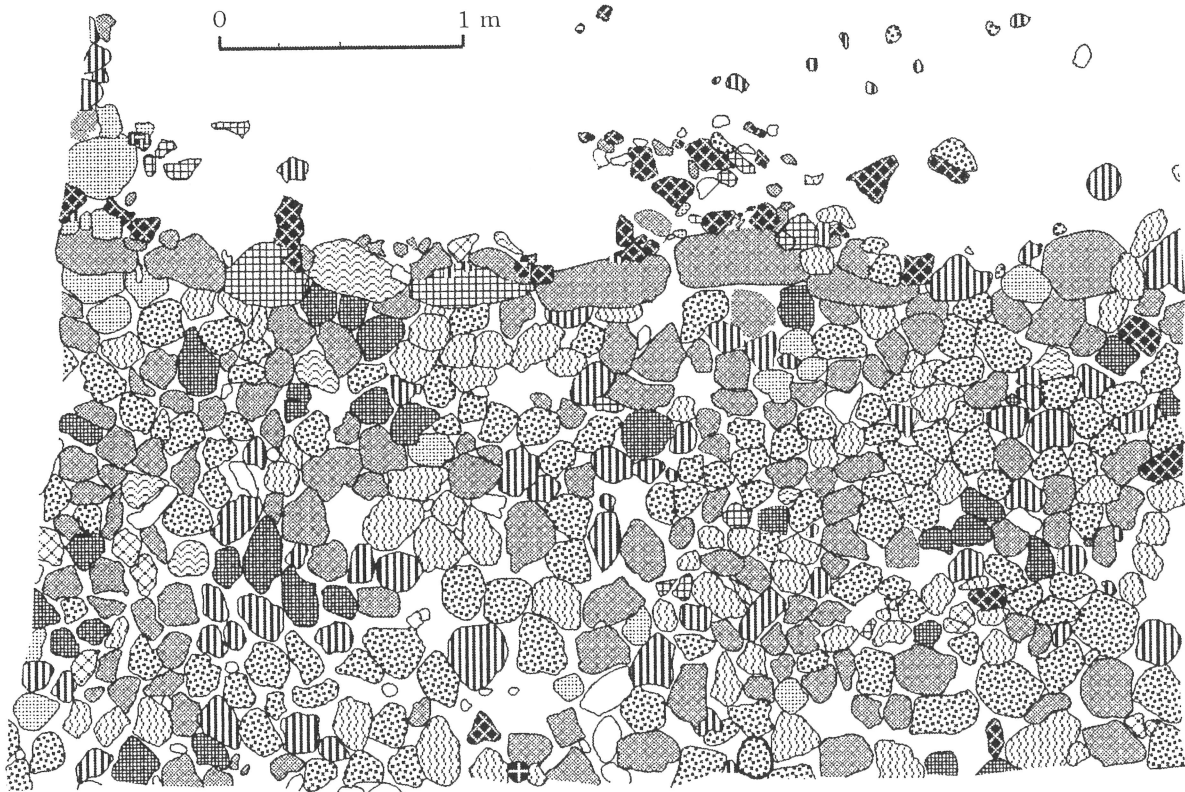
2 石材の使用傾向

列をなす基底石から北側には比較的小さな石が観察され、南側には敷石が観察される。観察した526個の石材の使用傾向について述べる。

使用されている石材の粒径は4～9cmのものが約1割4分、10～19cmのものが約6割、20～29cmのものが約2割4分、30～39cmのものが約2分、40～49cmのものが2個、50～59cmのものが3個である。長径が最大57cmである。石種構成は中粒アプライトが約2割3分、細粒黒雲母花崗岩が約4分、中粒黒雲母花崗岩Aが約3分、中粒黒雲母花崗岩Bが約2分、中粒斑礫岩が約2割9分、粗粒斑礫岩が約6分、片麻状粗粒アプライトが約1分、片麻状細粒黒雲母花崗岩が約1割3分、流紋岩質溶結凝灰岩が約7分、チャートが約1割2分、石英斑岩と石英が各1個ずつである。

基底石の石種は中粒黒雲母花崗岩A・中粒斑礫岩・片麻状粗粒アプライト・チャートで、他の使用個所の石種と同質であるが、大きな石が使用されている。

敷石は全面にみられ、割石が認められなく、自然石のみで、観察個数が401個である。石材の粒径は4～9cmのものが約5分、10～19cmのものが約6割5分、20～29cmのものが約2割9分、30～39cmのものが約1分である。10～30cmの粒径のものが約9割5分を占めていることから、意図的に同じ大きさのものが採石されたと推定される。石種構成は中粒アプライトが約2割8分、細粒黒雲母花崗岩が約3分、中粒黒雲母花崗岩Aが約1分、中粒黒雲母花崗岩Bが約2分、中粒斑礫岩が約3割、粗粒斑礫岩が約7分、片麻状粗粒アプライトが約1分、片麻状細粒黒雲母花崗岩が約1割6分、流紋岩質溶結凝灰岩が約1分、チャートが約1割、石英が1個である。敷石にみられる流紋岩質溶結凝灰岩は粒形が垂角～垂円で、川原石様であることから、初瀬川か宇陀川、あるいは吉城川の何れかの石と推定される。しかし、多量にみられる流紋岩質溶結凝灰岩の割り石は室生ダム北方付近で採石されたと推定されることから、この採石地近くの宇陀川の川原から川原石様の流紋岩質溶結凝灰岩も運ばれたと考えることが適しているだろう。他の石種の石材は南方の菩提仙川や北方の地藏院川で採石されたと推定される。流紋岩質溶結凝灰岩の磚と川原石様の石が使用されている例としては、南河内郡河南町にあるアカハゲ古墳がある石室床面に磚、墳丘テラスの敷石に流紋岩質溶結凝灰岩(室生火山岩)の川原石様の石が使用されている。



凡例

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| 中粒アプライト | 中粒斑礫岩 | W流紋岩質溶結凝灰岩 |
| 細粒黒雲母花崗岩 | 粗粒斑礫岩 | 石英斑岩 |
| 中粒黒雲母花崗岩A | 片麻状粗粒アプライト | チャート |
| 中粒黒雲母花崗岩B | 片麻状細粒黒雲母花崗岩 | 未調査 |

第32図 黄金塚陵墓参考地 石列・石敷石種図 (1/30)

石 種	粒 径 (cm)						合 計
	4～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	
中粒アプライト	5	69	44	1			119
細粒黒雲母花崗岩	5	12	3	1			21
中粒黒雲母花崗岩A	3	10		1	1	1	16
中粒黒雲母花崗岩B	1	8					9
中粒斑礫岩	21	91	32	4		2	150
粗粒斑礫岩	1	18	10	1			30
片麻状粗粒アプライト		3	2		1		6
片麻状細粒黒雲母花崗岩	5	48	17	1			71
流紋岩質溶結凝灰岩	17	20	2				39
石英斑岩		1					1
チャート	16	33	14				63
石 英		1					1
合 計	74	314	124	9	2	3	526

第2表 黄金塚陵墓参考地 石材の石種と粒径

石 種	粒 径 (cm)						合 計
	4～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	
中粒アプライト	1	66	43	1			111
細粒黒雲母花崗岩		10	2				12
中粒黒雲母花崗岩A	1	4					5
中粒黒雲母花崗岩B	1	7					8
中粒斑礫岩	6	83	31	1			121
粗粒斑礫岩	1	18	10	1			30
片麻状粗粒アプライト		2	2				4
片麻状細粒黒雲母花崗岩	3	45	16	1			65
流紋岩質溶結凝灰岩		4					4
石英斑岩							
チャート	5	23	12				40
石 英		1					1
合 計	18	263	116	4			401

第3表 黄金塚陵墓参考地 石敷の石種と粒径